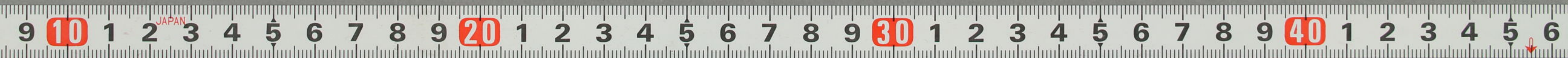


随筆  
籠

特別  
15  
1910  
4





息心筆記

別冊

<2017-770>



15  
1910  
4



韓綽隋南燕人為右僕射封高  
為左僕射嵩弟融為東中郎將  
綽弟軌為西中郎將四人同拜帝  
曰躍二龍于長衢騁雙驥于千  
里

韓瑗唐永徽初高宗欲立武氏氏為  
后褚遂良極諫帝怒貶遂良瑗  
因間奏事涕泣力救復上疏曰遂  
良體國忘家風霜其操鐵石其心  
社稷之舊臣陛下之賢佐願鑒無辜  
稍覺非罪上納之  
とろ武氏とりしハ後即天皇后と

し女執りしり世上下大悪  
人あり唐の高宗とて此女  
不善の君とてよく汚名を  
加へし後あり楮公沖の事を  
中世しとき帳中にてこれを  
帝は今わりのをうらこり  
きて後くとよりの悪人あり  
帝は武士の心をなすめん  
楮公をさく左邊せらるる時  
ころ韓瑗のしとく諫を  
聞て因て事を奏すなり  
なりし楮公を救ひしあり  
さる今にえのやうにあたり  
を此上疏を上つて遂に良ハ

國を體し家を忘れ凡庸  
ろこととて其のさか  
その心社稷を善臣とて  
その良佐あり其の身  
おいて恥をへたの罪あり  
能く思ひ後くおと心を  
ト上ありしとて女あり  
やめついでハを國ハ  
いつさふ楮遂に良の賢佐  
韓瑗乃忠諫高宗乃暗  
武氏、奸悪いつとて千載  
不朽あり善悪明暗一  
分明

大學一冊ハ是レ也一ト云フ  
ト一ノ幾度之ト云フ  
忠孝信義をあらわす  
ウテ知事アリ一主敬也  
後ト云フト云フ上下  
ワラフをよク云フ交リ  
乃チ一ニミテ信アリ一  
字をよク云フ云レ  
正心誠意アリ一人ハ  
自然ト云フ正心誠意  
ナリ一ト云フ云レ  
是レハ不云フ云レ

云レト云フ彼ハ云フ  
つくまらぬ一ト云フ  
乃チ一ニミテ信アリ一  
字をよク云フ云レ  
正心誠意アリ一人ハ  
自然ト云フ正心誠意  
ナリ一ト云フ云レ  
是レハ不云フ云レ

療治をなす

よきこと

人の子をハすべし  
死にたれどもハ必死  
乃病と相争ふに  
けいふも悪魔乃  
着病とありしもの  
中へ聖をくすは  
治まへきものあり  
不攸あり

一宋乃李繼宣ハ湘封乃人乾  
德年中ハ材武を以て殿真  
補せらるつ<sup>纒</sup>ハ十七歳<sup>切儼</sup>

冲意あり、虜を峽州ハ捕虜  
二十餘を殺<sup>一約</sup>二虜を<sup>生擒</sup>  
進獻乃々ハ冲賞ありて邊  
任を授らる至ふハ戦功あり  
嘗て北虜を新城とふに  
追ひ退く虜兵乃將賀恩相  
公ハ兵を高陽ハ監もを  
攻めりハ賀恩を斬り兵を  
率して虜境ハ入り盡く此  
聚落を焼きたるハ生獲  
甚くあり瀛鎮乃北虜  
ころをきて盡く引退く

詔ありて定州路ありて詔ありて  
直り北境入りて殺獲甚く  
衆一 崔彦進 曹彬 李繼隆  
米信等あり諸大將あり従ひ契丹  
と戦ひ勝利あり 虜を  
北に命ふありてささるる功  
一 稱揚あり及して  
秦翰 楊延嗣 延昭 張斌とて  
賊軍入り陣ありて矢あり  
ありてなをされ 三つあり馬あり  
ありて之をばりありてあり ありて  
ありて身ありて官ありて四方  
館使ありてありて至り康州あり

刺史ありてあり 六十四歳ありて  
卒あり 十七歳ありて 四つあり  
ありて甲ありて馬ありてありて  
ありて 日本ありて今太平あり  
ありて 四つあり 諸侯ありて  
ありて 大夫ありてありてありて  
ありて 五百ありてありてありて  
ありてありてありて 太祖 高祖  
ありてありてありて 辛酉ありて  
ありて 記録ありて 明白ありて  
ありてありてありてありてありて  
ありてありてありてありてありて

一八舎根を以て名を以てし  
 しむるやいふに聖人乃  
 御徳を以て名を以てし  
 事ありとく文字を鼻  
 さきくといふやうに家業を  
 大なり清平乃御恩を仰  
 せり御徳を守りて事  
 ありとく名を以てし  
 虚名を以てし名を以てし  
 うりて農工商乃仰り  
 身を以てし人たすけん  
 人を救ひて名を以てし  
 天此御のくみありて木のつと  
 子孫世昌餘を以てし

有しと定むるれはハ万事  
 天命ありてありてし  
 一李觀 字泰伯南陽人通五經生  
 徒嘗數百人曾潤甫皆其高第為  
 文章自成一家天下知其名皇祐  
 開范仲淹薦試太學助教除太  
 學說書既沒潤甫上其退居類藁  
 皇祐續藁并後集詔官其子參魯

一李清臣宋少負才名一日往謁韓琦  
 其姓報曰大叔方睡客且去清臣因



題詩于薛曰。公子乘閒卧碧幃。白衣老  
吏傍寒儒。不知夢見周公侯。曾說  
當年吐哺無。琦見之驚曰。吾志此  
久矣。竟屬東床之選。

周公成王を輔佐し終るまで  
束髮吐哺も事なり。大臣と  
して天下大少も事をつかさ  
とふ身分我々位なり。たり  
かこり。まひり。まを自由  
し。下り情をきし。とけ  
君ろ徳をさ。かひ。民ろ。や  
こり。又も。さ。か。事。より  
天下ろ。これ。及。姻。宰相

賢愚。一。上。周公ハ聖人ナリ、  
これ。念。と。後。  
ト。下。り。い。つ。ま。あ。れ。ハ。食。を  
ク。む。ま。せ。ま。ら。ひ。ひ。ぬ。ん。  
思。ひ。口。ろ。も。の。を。と。さ。し。  
結。い。ひ。し。髪。と。せ。ぬ。あ。  
と。て。つ。も。り。お。ま。る。人。上  
あ。ひ。き。く。あ。さ。き。き。  
と。り。ハ。宰相。ろ。つ。の。周。公  
ろ。教。を。古。ゆ。へ。を。聞。く。  
い。ら。ふ。し。睡。り。寒。儒。を。あ。り  
あ。れ。位。ろ。さ。り。か。こ。り  
君。と。だ。し。民。を。治。め。り。

こころをいふは人か  
こころを詩にあらはせ  
韓琦大いに好む  
人こそ我より  
こころを思ふこと久し  
公選よあけらば周公大聖人  
孔子も夢よ周公を思ふ  
抑もこころをいふは  
束髪吐哺可なり  
人を敬むる事  
一生周公を敬むる事  
可なり  
民もあやむ天の感格あり

風調雨順民安樂國王春  
より  
災  
長壽

李復珪滑州より知事  
司馬光詩を賦して是を  
送滑州より郡官と  
夜宴を設く牙兵あり  
銀匠乃鐵鎚を奪ひて  
人をいふは即時  
之れを捕て立ところ  
是を斬らしじ上章

罪を待川 諸司を此擅  
殺を按を仁宗曰復珪ハ  
帥材也除して慶州  
治たらしむ邵堯夫  
福年ころ人を賞美せ  
ら海臨事有断と  
此れ心意明白  
い此人之おふ濁  
た  
逸才ハ群  
司馬光の詩を送

人々 邵堯夫之堂

宋一代の人品と見

李公麟 字伯時舒州人元祐進

士泗州乃録事 公麟

好學博雅長于詩多奇字

之識遠夏商より己未の鐘鼎

尊彝皆能考定世次辨別款識為

考古圖朝得一玉璽衆莫辨公麟曰

此秦璽用藍田玉非昆吾刀不可

治上嘉其識善丹青妙絕冠世

黃庭經謂其風流不減古人弟公權

公寅六舉進士有名元符間歸老

龍眼山龍中號沈眠居士推禽漁有龍  
眠經

宋李格非字文叔濟南人舉  
進士累官禮部員外郎嘗  
著洛陽名園記謂洛陽  
之盛衰天下治亂之候也  
其後洛陽陷于金人以爲  
知言格非工於辭章嘗言文  
不可尚作誠不若則不能  
工妻王氏拱辰孫女女清昭  
自号易安居士皆能文

一我且長流一生れ二十歳  
また長流一ありては  
東より上りて北より下りて  
歴凡五十八國を思ふ長流  
ありて十色一ありては  
美しき一華商を思ふと  
甚く多し一皆を学あり周昭来  
可といふ語あり朱来章可といふ  
そのも音あり沈来若可といふ  
武官といふといふも可といふ  
此の如く寓字乃名ありといふ也  
和人乃いふを過りての華を  
よしと思ふとくありあはし

かせそ玩弄をとりて一人  
書法を得るのみならず  
道理ありといふこと  
商人ありからく子をも  
これありて是をいし  
之れハ正直なれとて  
よありてその上多く  
あり朝鮮人の四なり  
かれとも来使ハ子高宿  
文雅ありとこれと詩文  
筆ありひり書と画と  
是れと賞玩をくき  
兼り朝廷ハ  
り

学才ありあり見ゆ  
これ来訪大部の諸書  
一日本ありて人あり  
人なり学識高明なり  
志ありてこれより  
よくあり書肆あり  
書をいひて  
これを見れば  
此人を教あり  
聖賢の教あり  
よく  
よき師匠あり

一人二人がたへまは出来ぬ  
いふ事申す上り下りし正真  
あつく聖教をよまふ法に  
人の心をやまふ事やうに  
あつゝいふしきとてか  
つましきやうなり

一唐乃世に韓璣媽といふ人  
あり彈を好むに金子  
を以て是を自作の丸なり  
一日にたけ矢乃十数  
長安是れ、為るに語て曰  
若饑寒逐彈丸媽出則  
随之

之とて之をいふ一とて  
ら八彈丸をたひしとあよ  
媽のいふとてハこれなり  
あつゝ

こ乃韓鳩金おつさた之此  
ところ窮人は是より志す  
こ乃金丸をおつさた  
事此こ乃むり我道寺社  
乃上果さ見ゆり餅と  
授けるなり是を捨つる  
麻のこと況や金丸  
王公貴人の格別常人の  
福ハ人なりは  
とゆり佛家喜捨し  
子之をさむる  
とては人をさむる上貧人  
乃たさうゆきこを捨つる  
こ乃あゆり我あゆり

まをたたるなり  
たよりなり是をさむる  
衰ゆるはりを授けり  
やうなり王公貴人の格別常  
人のさむるさむるなり  
ゆりはるなり是をさむる  
若殿をさむるなり  
子と思ふなり  
是を災を植るなり

唐乃韓幹馬ハ古今無兩  
とかゆり四文字  
千百乃文字をつつ善美  
をつくると古今無兩以上

稱とすまらむ事ありあましく  
孔子に聖なり  
字萬古瞻仰

一唐の韓思復、滁州の刺史

たふとよき署庭に黄芝聖芝

五莖を生ん、民石を刻

して是を紀頌と、御史大

夫よりつふ卒まがれり玄

宗帝につく其碑に題

有唐忠孝韓長壽之墓

これ子朝宗、荆州刺史とふ

李白書と興て、生不

願萬戸侯、但願一識韓

荆州、襄州とふ、不二乃

井あり、これ水を飲じ、の

多く死も、朝宗書と

神に諭して、乃二乃

乃二乃、善一人

とふ、不二號して韓公井と

子



漢一防年景帝時因繼母陳  
殺其父年遂陳廷尉以大  
逆讞帝疑之武帝年十二  
侍側對曰繼母如母緣父之  
故今繼母殺其父下手之時  
母道絕矣是父仇也不宜  
以大逆論帝從之

日本人をこゝろしゝ防の  
御仁皇万時下手人と  
是れウ久しき事なり

継母実父をころし此子継母  
をころし継母をころし此子  
大逆乃つて之を約せんあつ時  
武帝十二歳側年一歳して  
是をきく継母父帝對し  
て乃てきく継母ハをころし  
父上よる乃れ之をり今継  
母を此父をころし下手乃時  
母乃て之を絶しぬ志す此ハ  
子乃て之をころし此継母ハ父乃  
仇なり大逆を以て論を  
及る此乃て帝御感あり

此御言を従ひ継母

唐  
一程驤ハ其父少良といふ盜

贖を致すこと百萬老て行  
を改め里南を出家す此子  
改り死せり子驤父乃不良  
を志す此あやまらあつ  
其母これを罵りて子此種不  
良なり好事あり一きも譲泣  
其父を向ふ母こころく父  
乃悪事をしてきり驤救日  
食ふことあり一食盡す此

家財を分散して、いつうも  
貧窮し里中不讀書先性  
是り執りて学ぬ先生これ  
賢ありとして、饘粥布帛を  
其母に供せしむ漸くして五  
経史子を通く動繩墨あり  
漸成りてしめ相國彭公これを  
聘をれとて起す

一、之を以てハ将相た子なし  
と子をも常たをま令て是  
急て学才乃長芝之を  
福ひ人品をこくも其  
かんやうとまふあり、  
乃民之帝乃者子あり  
たよあり、かきし以賢徳  
ありて國用しなるときあり  
をらひつうを命を此人あ  
れハ其官其職次第あり  
三公九卿乃例ありて

天下の政事よあつうは今  
かかろふことしし加つて光  
榮とあることしあれハ一州府  
一村一邑教養の教を人々  
教と習者之能書きふと  
百と有るべき事あれと  
上乃御書らひとしと  
これこそ御用あり一人  
そのあれ家ことし見ゆ  
よ、乃史傳乃人乃教と  
千手と五百手とと子  
かろふ御事、それ人乃教と

詩文章乃故事  
とつととと左右乃指と  
かましく屈伸とと  
及らふ

日におと讀書高字乃  
指の事とと口を測る  
との下とありととと  
御事とひろとありと出  
身乃ことたへと此  
人なましくありとあり  
りらありし、家業

うらむてやうて多きん  
乃ち市街通にありて  
こゝろさしひきくいやし  
きれりをも天意なり  
たりよる理つしひき  
事なり

一武士乃浪人又は名  
せきつあゝ人乃農工商  
乃ち市街通にありて  
乃ち市街通にありて  
乃ち市街通にありて  
教ゆゆと市制禁あり

そは如後書寫字徒を  
めつめて今もとりまむ  
まハ部よりあはれかみ  
よこつきをさへて  
高命をまつまむ  
かろ身をもよこす  
事一よありて  
なまむ  
上のハとん  
賤より貴より  
こゝろあゝ人  
賤坊とありて是

まこと堪しし功なりと  
部子してこれ恥つては  
つ子なり 賤しきと  
なり 賤をいふなり

一武士乃武をもつたしハ侍乃侍  
と同じ之れ乃之れくさ  
なり 事なり 武なり  
なり 侍なり 侍なり  
人乃自然なり 中なり 日なり  
志なり 志なり 身なり  
子なり 其なり 其なり 教なり  
侍なり 子なり 侍なり 侍なり  
志なり 志なり 志なり 志なり  
侍なり 侍なり 侍なり 侍なり

宋  
李元亮抱才尚氣宗寧中處  
太學時蔡寔為學錄元亮輕之  
後寔知和州元亮猶布也過州不謁  
寔命駕先至其館元亮以啟謝云定  
館而見長者古所不然輕身以先匹夫  
今無此事蔡嗟嘆餉以錢五十萬且  
致書建譽於諸公遂登科

元亮高才なり 宗寧耳中學校  
なり 是なり 蔡寔ハ學錄をつとめ  
元亮は子なり 學錄を輕之也 山陰  
和州守なり 元亮ハ布衣人なり  
蔡寔ハ布衣を重し 元亮是を謁せ  
蔡寔先ハ駕を命じて元亮ハ  
なり

元稹謝詩  
館之定て長文を見つハいよし  
志しとせし身を軽ろしし匹  
夫不先子川今ハ二ふことか  
蔡山疑嗟嘆して餉古ゆり鐵  
五十萬を以て其上書を朝廷  
乃諸公不致して是を延譽  
して遂に登科せしむ

宋 李光 紹興中參大政與秦檜議論  
不和謫瓊州與胡銓海外唱和其吏隱  
堂詩云旋移松石成巖壑時引笙歌  
入醉鄉吏散簾垂畢清風一榻傲  
羲皇

まことしきり 吏に隱る詩

なり 松石をうつしつて  
巖壑乃ふきおのり  
乃も歌わす笙歌を  
醉郷に入さるり乃下汲人を  
おひくり宿ありき  
廳乃まをれをふくおのり  
こころとふところなり  
乃榻をりよけて一榻たの  
しむところ清風爽く然  
として羲皇上世乃極なり  
傲はまことしきり 君ハ上よのり  
臣公みよ良なり 民乃詐し

まゆり 垂簾のまゆり  
ふくみ 四のまゆり 万民安樂  
あり ありのまゆり 世のまゆり  
を二十六字のまゆり  
ゆり よき御役人とのまゆり

一李安期 字泰伯建寧縣人  
淹貫經史援筆成文以詩名  
岳飛死作表忠詩百二十首  
出之一日謁四川茶馬使王涯  
奇其才將以賢良舉偶因奕  
爭道安期推枰曰公平章  
天下亦可如此反覆乎

遂拂衣而去竟不出王深  
自刺責以未藝失天下士所  
著有蒙谷詩集

奕棋乃勝負のまゆり  
ありのまゆり  
たのまゆり  
安期ハ布衣の人王  
涯ハ官人良段乃上先  
病のまゆり

宋 李如圭 吉水人七歳時





宋  
一李元白名齊以字行寧  
化人博學強記不能俛就  
舉子業乃大肆力于詩出  
入少陵集中幾逼真纂杜  
詩為押韻入集其句為一篇  
皆行于世嘗集大觀昇平  
詞若干首以進得初品官即

南北  
一成玄著公穀總例十卷

一成銳應制科以詩上王文惠公  
其野菊云採檻應無分東風不借恩

其野花云馨香雖有地栽植未逢人

宋  
一平居誨撰于闐國行程  
記一卷

于闐國ハ西域天竺國の下  
行程記とよと云ふや千年  
ちくさ日本よて諸國行程  
里程を記しな小冊あり  
行程記とよと云ふは里  
敷を言し驛ろ名を記し  
うぶのよ記文とよと云ふハ  
あつた華人よ撰よ行程

記ハみ子真矢字乃文璋人  
一驛一節一村一里山川草木  
禽獸虫魚人物土產乃子  
是之之らさる是之又天  
下一部乃考據之之書

漢  
一平當字子思 哀帝朝以明經  
為宰相賜爵關内侯子晏以  
明經歷為大司徒漢興章平二氏  
父子至宰相

一周乃荆公八行年十五歲  
相乃事攝社於孔子孔子  
是之之らさる是之使  
其政之之せし使使者還り  
子其乃清淨しして事  
少し 具朝清淨而少事

宋  
一征集事母至孝居鄉里恂々恭謹  
樂賑人之窮急而未嘗與人  
校曲直好蓄書能為詩有  
子五人而三人登進士第長

復次黃皇祐嘉祐間相繼登  
第集之卒也王安石為表其墓  
稱為淮南善士

<sup>宋</sup>王安石字介甫臨川人父益歷官

州縣有聲安石生有異質及長博  
覽強記善辯不屈所為文淵源乎  
典故擢進士上第神宗朝拜相封荆  
國公謚曰文號半山著有周禮三  
經文集行于世

一中華以下貢舉選舉乃時  
二思之詩文章乃題在出  
一即時下其命下應一是也  
化下出之可一其文乃意興  
議論甚之明白一天子沙苑  
公卿評議中分一公即日騰  
舉刺史縣令八中一及公  
直下朝廷侍從乃臣下之分  
頃刻乃爾下民服之改之  
縉紳乃列上上之分是也舉  
任及第乃人之一天下乃

一人後中史冊より与り千古盛  
名を了く格別な事あれハ  
謚號を賜り廟祠して之を  
是を崇敬しまつはあり  
よき人とのつへきを理天下  
治道の本とすふこと之れハ  
なり

一淳和院特字院ハ大學翰林院  
此職を大將軍兼させらる  
天下<sup>可與</sup>為さし文學あれハ  
大將軍乃選舉あり一人  
之を此人なきこと決定し

たふ<sup>と</sup>又山林大學  
代、聖堂乃祭酒として諸  
士乃末席あり諸侯乃  
儒を扶持とふは林氏  
準して諸士乃末坐あり  
師として禮とふは事一向  
たへしり此人なきは  
事と見ゆ況やちと  
乃學とふは事  
卑賤さるる及婦人  
如くは之を聖堂に  
地を抄らるるあり



如故人民非何不學仙  
塚壘々

丁氏靈虛山と云ふ事  
して仙術を學ひ故郷  
還りて後あり  
城郭ハりよことごとく  
人民ハみま教十教百代  
後た、尺許塚乃不ぞ  
壘々々たるを 此詩韻礎  
明々千年と空中優遊  
文字乃工夫あり一き事  
おつれも天然と見ゆ

これらと不思議と云ふ

一漢乃肅宗皇帝乃時  
丁鴻下詔あり諸儒を  
白虎觀に會して五經を  
論定む鴻乃論談最  
明なり時乃人語りて  
殿中無雙又丁孝公  
孝公ハ丁公乃字あり  
馬亭卿侯に封せらる

父老丁繇子光武乃征  
伐了軍功多原于  
新安鄉度不封せらる

唐

賴斐字沈甫雩都人七歲  
能文弱冠通九經百氏乾  
元中舉進士拜崇文館校  
書郎不就退居田里人稱  
其居曰秘書里

隋

一王通字仲淹龍門人開皇  
四年生父銅川曰是子必能通  
天下之志因名曰通幼篤學  
銅川曰爾来自天子至庶人未  
有不資友以成者也有三之  
義師居一焉道喪以來斯  
廢久矣然何常之有小子勉旃  
翔而後集通於是有四方之  
志受業於東海李育學詩  
於會稽夏璵尚禮於河東關  
子明正樂於北平霍汲考易



於族父仲華不辭衣者六歲其精  
專如此仁壽初慨然有濟生之心西  
遊長安奏太平十二策帝大悅  
曰天以生賜朕也下其策於公卿  
時太子廣有謀弒之事通知  
謀之不用作歌曰我遊國家兮  
遠遊京畿忽逢帝王兮降  
禮布衣遂懷古人之心兮將  
興太平之基時異事變兮  
志乖願違吁嗟道之不行兮  
垂翅東歸皇之不斷兮勞  
身西飛帝聞而再徵之不  
至辭以疾退居河汾教授

乃續詩書正禮樂備元經讚易  
道九年而六經大就門人房玄齡  
等百餘人咸北面受王佐之道  
往來授業者不啻千數大業  
初徵為蜀郡司戶又授著作  
郎國子博士並不至一日  
召門人薛收謂曰吾夢顏回  
稱孔子之命曰歸休乎殆  
夫子召我也何必永厥齡吾  
其不起乎寢疾七日而卒

門人謚曰文中子所著有禮論十  
續書二十九卷續詩十卷元經素讚易十卷

又為中說以擬論語。弟凝字林怙  
凝子二人福郊福時。孫四人勗勗勗

通弟績字無功。隋大業中舉孝弟  
廉潔授秘書正字。還鄉種黍蒔藥  
釀酒自供。嘗與仲長子光游北山東  
臯故著書號東臯子。唐武德初待  
詔門下省官。給酒十斗。飲之五斗不亂  
。著五斗先生傳及醉鄉記。貞觀中  
撰隋書。勗唐初第進士。長壽中  
為鳳閣舍人。壽春寺五王出閣。有司以載  
冊文宰相失色。勗召五吏執筆。分占其辭。  
粲然裴行儉見之曰。銓衡之才也。

勗與兄弟勗勗皆著才名。故杜易簡  
稱三珠樹。其後勗又以文顯。勗早卒。福時  
子勗亦有文。福時嘗託其子韓思彥戲之曰。  
武子有馬癖。君有譽兒癖。王家癖何多。  
邪。時使勗出其文思。彥曰。生子若是  
可誇。勗字子安。六歲善文。辭九歲得  
顏師古漢書讀之。作指瑕以摘其失。  
麟德初對策于朝。授朝散郎。年未及冠。  
沛王召署府。備撰作。鬪鷄檄文。高宗怒。  
斥出客劍南。其父坐勗故左遷。交趾令  
勗往省。嘗舟次馬當。見水府元君。曰。當助清  
風一帆。次日至南。日九月九日。都督閻公

大會客于滕王閣勃年少廁座末閨宿  
命其婿吳子章作滕王閣序以誇客  
出華通請莫敢當者勃受而不辭閨遣吏  
伺其文即報之至落霞與孤鶩齊飛秋水共  
長天一色閨乃矍然曰天才也請遂成  
文極歡而罷盧耽隣駱賓王楊炯  
齊名号四傑勃氣文磨墨數升酣  
飲引被覆面卧及寤援筆成篇又易  
一字時謂腹藁請為文者曰衆金帛  
豐積人謂心織筆耕後渡海溺水死時  
年二十九有集三十卷行于世  
勃字君懋勃季弟撰隋書八十卷  
子安乃滕王閣日本入於小く知少く  
二十九歳にして死に集三十卷希代乃  
才子なり

**唐**  
一王宏 柳子厚龍城錄云淮南  
人與太宗幼日同學因為八體書及  
帝即位訪宏所在鄉人竟傳隱去是  
亦嚴光之徒與

**唐**  
一王少書 玄 聊城人隋末父亂兵遺腹  
生少玄甫十歲問父所在母以告即  
哀泣求尸時野中白骨覆壓或曰  
以子血漬而滲者父尸也少玄鏡  
膚越旬始獲負歸而葬事問拜  
徐王府參軍

日本よとびあふりわ  
子わくの死をたつ子白骨  
乃覆壓にしくさふ下子乃  
膚をきり血をそくせり  
心より以滲志うつきん  
父乃骨ありと子外あり  
ふハ血つくとん

題文待詔高軸之後

此陳世 言書画者無不知文衡山依其法而  
若湖門子誘子弟者亦甚多 雖不得其意  
而以其名證之多因 對本 惜而莫序之 而其本亦  
和而未得華刻之真物得者 皆 秘之不謬視之  
本 人學業子弟終不見待詔之真蹟而惟真  
其所依而各極口而言文衡山 其 豈謂之字之道

待詔 八十餘歲而 百歲 公之所養亦 可思也

成四體于文之小楷齊整可觀。

華夷

抱真主人生平雅愛至書畫之純正  
和者殊明試之 者無和漢畫意而得之以之為常樂  
輯近年 康熙帝所撰 書畫譜者  
古今名人無漏抱真藏此譜而  
考正之一代有名之縉紳隱士僧道  
得其 物 則憑此譜而詳悉其 如 物 也  
此卷 然 此記其子其門人而謹及  
養之 枯語



趙翁老後脚疾不能以  
 造置空冊於几案隨得  
 隨化以自遣焉不知幾  
 十冊也其四冊也去抄  
 古書譯其義理或咏俚  
 歌寫其所懷皆足以解  
 世俗之惑使其檢身  
 治生余同翁今神豪  
 邁蔑視一世而其晚年

所自警勉人藝懇如此  
 與彼孫才伐藝傲慢自  
 喜者不可同年而語也  
 然則藏此冊者豈可徒  
 賞筆跡之超妙而不尚論  
 其人哉是受積厚辭也

丁亥秋七月筱崎獅書



